

◆teku-teku 2010★谷中芸工展＋根岸そら塾企画(活動記録＋評価集計結果)◆

企 画■アートと街と古民家の良き関係 ～谷中芸工展と根岸そら塾を訪れる～

日 時■2010年10月9日(土) 11:00～18:00頃

コース■上野公園(美術館・博物館群、芸大美術館&ギャラリー他)～谷中寺町(市田邸、ねこじゃらし、アランウエスト他)～根津職人町(路地長屋、井戸、カフェ couzt 他)～入谷・根岸(そら塾、金美術館通り、侘助他)

参加者■◎大竹 亮、安藤 文、井手幸人、小川美由紀、栗原 徹、濱本智子、原 久子、水谷晴子、溝辺正浩(以上9名、敬称略、◎コーディネーター)

企画主旨■

恒例の「上野・谷中アートリンク」と「谷中芸工展」が今年も開催されます。アートリンクは、上野の美術館と谷中のギャラリーがコラボレーションする美術展で、芸工展は、谷中・根津・千駄木に点在するアトリエ、ショップ、ギャラリー、さらには一般住宅までを会場とする催しで、町じゅうが美術館に変貌します。参加団体は例年100前後に上り、多彩な企画が並んでいます。そこで今年も、町がもっとも活気づくこの時期に、特製マップを片手にこの街を歩いてみます。なお、オプションで根岸・入谷の古民家カフェも訪れます。

<参加者の意見・評価>

1 ■谷中芸工展全体

評価:4.14 内訳:AAAABBB-

A: スタンプラリーが予想外に効果的で楽しめました。普段入りにくいお店にもスタンプのおかげで敷居が低くなり、対象店舗が多いのも組み合わせの選択肢が広いのも面白い要素だと思います。今まで構築した頭の中の地図(道路網)をより正確にすることができました。

A: 特別な展示会というより、生活の中の一つになって来た(ハレからケへ)ような気がします。

A: まちぐるみの芸術展は、以前よりもエリアが拡大し、盛り上がりを感じられる。会場も古い住宅を改装したギャラリー、カフェといった体裁の所が多く、芸工展の雰囲気定着した様子が伺える。欲を言えば、以前よく見られた、通りに向かって開かれた展示がもっと多いと良い。

A: 相変わらず参加団体も多く、粒ぞろいで盛り上がっている。古民家、長屋、店舗など建物の特性を活かした展示が多いのが楽しい。しかし、街に向かって開かれたアートが少ないのは残念!

B: 年によって発表内容も変化しており、層の厚さを感じる。

B: 芸術を美術館などの限られたところだけでなく、街へと広げていることは、芸術にとっても、街にとっても様々な形でプラスになっていると思う。

B: 民家や小さなギャラリーで楽しい。

一: 芸工展期間中である(日常の谷中とは異なる)と思わせるようなコアが、場所あるいはイベントに欲しいと感じました。ただし、コアとなる場やイベントに遭遇しない時期あるいは場所を訪問したという可能性もあるので、断定はできないのですが。(従って評価は難しいですね)



谷中寺町／ねこじゃらしに入る路地



根津職人町／モダンなカフェ couzt の外観

2 ■上野公園の美術館、博物館群について

評価:4.25 内訳:AAAAABBB

A: 日本で最も美術館・文化施設が集積する地区では。最近、京成から上野公園に向かう崖に面した建物の再生が進んでいます。貴重な文化空間づく演出できるようなデザインになるといいのですが。

A：上野公園の中央広場を囲むように様々な美術館・博物館が並ぶ様子は、世界的にも珍しいのではないかと。名建築も多く、時代の趨勢に合わせて手を加えることはあっても、以前からの雰囲気を保とうとしている点が良い。

A：江戸時代から明治、戦前、戦後、現代の最高の建築物が集積している上、免震レトロフィットやモダンなリノベーションまである。芸大美術館&ギャラリーは、大学を街に開く試みとしてユニーク。

A：日本、東京が文化都市になるための理想を感じる。芸大美術館だけではなく、音楽の方も開放されると良いです。

A：その後訪問する谷中地区との対比として考えると、企画として面白かったのではないのでしょうか。

B：多くの美術館や博物館は建築としても質が高く、上野全体が建築博物館のようにも見える。各々の美術館や博物館がもっと街に対して情報発信すれば、もっと面白くなるのだが。

B：広いので、歩いて移動することが大変。園内を回るバスがほしい。

B：普段見慣れ過ぎていてだけに、評価が難しいです、、、



上野公園／芸大美術館ギャラリー前



上野公園／芸大美術館ギャラリー内部

3 ■谷中寺町について（市田邸、ねこじゃらし、アランウエストなど） 評価:4.00 内訳:AAAABBBB

A：できる限りもとの姿を保存しようとする市田邸。もとの雰囲気を残しつつ、天井をはずす等、ギャラリーとして使いやすく改造している、ねこじゃらし。どちらも良いが、年経るごとに和のデザインが加わり成長を続けるアランウエストは圧巻。

A：住んでいる人、展示を運営している人と気軽に話ができて気持ちのいいまち歩きができた。これがこの街の良さでもある。

A：谷中の古民家の活用例3題と考えると、面白いと思います。

A：何度行っても発見がある。

B：ユニークなスポットが点在しているが、多くのお寺があることで空間的な余裕があり、全体としては落ち着いた雰囲気の街並みとなっている。

B：こちらも普段見慣れているので評価が難しいのですが、アランさんのアトリエなどあいった空間が増えていけばと思います。

B：古民家を活用したアート展としては非常に面白いが、普段の街の生活が伺いにくかった。



谷中寺町／迷路のような路地と店舗



谷中寺町／ねこじゃらし内部展示

4 ■根津職人町について（路地長屋、井戸、カフェ couzt など）

評価:3. 50 内訳:AAABBBBC

A：商店街や路地と長屋の街であり、ギャラリーは少ないが、谷中よりも庶民的な生活実感が伝わってきた。カフェ couzt は、非常に居心地のいい空間だった（雨の日だったので内部が余計に快適だった）。

A：路地長屋や井戸のある空間に「おしゃれ」なカフェが埋め込まれているという地域の構造が面白かった。

A：この街のルール（住んでいる人の暗黙のルール）によって持続されている空間であり場であるような気がします。空間の維持には、まちの不動産屋さんの借家人教育が利いているみたいです。

B：長屋や昔からの商店などを見ると、庶民的な街であることがよくわかる。

B：一番、谷根千らしい雰囲気だと思いました。

B：当時の感じなどが残っているのと、人情味のある空間がよい。

B：通りに面した表はカフェなどがあり、雰囲気を明るくしているが、街区の奥の路地長屋などは沈滞した雰囲気と、根強いしぶとさのようなものが感じられる。



根津職人町／路地裏に連なる長屋



根津職人町／「修復のお仕事展」の様子

5 ■根岸・入谷の町について（そら塾、金美術館通り、侘助など）

評価:4. 14 内訳:AAAAABC—

A：本物の老舗と生活拠点としての商店街が、今も現役で続いている厚みのある街。本家下町と言える。そこに「そら塾」や「侘助」、そして「入谷プラスカフェ」のような高感度の新店が点在し、在来店と拮抗して彩りを加えている。

A：地味なイメージの街だが、「侘助」など非常にいいお店があり、生活するには非常にいい街。

A：印象が全く変わりました。これから、面白くなりそうな空気感も良いです。住んで楽しい場所としてもっと認知されれば、地域のイメージも変わるのにとします。

A：「そら塾」がどうして出来たか、どの様な方が運営しているか、運営上の問題は等々、貴重な話が聞けてとても勉強になりました。teku-teku ならではのひとときを過ごせました。

A：「そら塾」は、場所については寺が地主&震災を超えて残った古民家、場の再生についてはプロフェッショナルなアーティストらによる場の風景を残したままのコンバージョン&運営、と、もし「そら塾」のようなケースで根岸・入谷が地域の活性化を考えているならば、ストーリーが揃っていました。が、気がかりなのは根岸・入谷がその方向での活性化を考えているのか、ということでした。（「そら塾」単体ではAですが）※

B：「そら塾」や「侘助」の空間、携わる人とそのつながりは、見聞きしたことがとてもすばらしかった。（今のところ目立った動きがなさそうなので、B評価としたい）



根岸・入谷／そら塾の内部吹き抜け



根岸・入谷／金美術館通りの豪壮な商家

6 ■特に印象に残ったところ

上野の芸大美術館ギャラリー★門を入ると中庭があり、そこに面してギャラリーがあり、横の路地を介して美術館につながる空間が上手い（にくい！）。

上野の芸大の前の道★

上野桜木のマンションと隣接する住宅群★マンションと複数の戸建て住宅群がつくりだしている空間が非常に面白い。

谷中のアランウエスト★訪れるたびに和のデザインが加わり成長を続ける様子がすばらしい。

谷中のアランウエスト★日本美術を日本人以上に大切にしている。

谷中のアランウエスト★工房の外装、内装をつくり続けるプロセスそのものが芸術。

谷中の寺の古本市★オープンスペースのあるべき姿という感じがしました。

谷中の寺の古本市★掘り出し物がたくさんありました（そら塾の2階にも）。

谷中の猫じゃらし★路地の先のそのまた奥の古民家を上手く改修・活用している。雰囲気もあたたかく、居心地が良かった。

谷中の猫じゃらし近くの路地・井戸★

根津の澤の屋旅館周辺★無くなった木造長屋、改修されて再生しようとしている長屋の今後がとても気になる地区。

根津のカフェ couzt★カフェテラス型の店が多い中、窓際と通りの距離感が良い。

根津のカフェ couzt★とてもお洒落で居心地がいいお店。和風が多いこの街で、洋風というのもいい。

根津のカフェ couzt★あんなに洒落た店があそこにあったとは。

根岸のそら塾★産直食材のカフェ兼直売所、こだわりの古書店、そしてギャラリー、それを提供しているオーナーの姿勢と人間関係に支えられた癒しの空間だった。

根岸のそら塾★1階も良いが、2階の和室の古本屋という造りを初めて体験したが面白い。

根岸のそら塾★オーナーや店員さんの独特の雰囲気を含めて、貴重な体験をさせていただきました。

根岸のそら塾★（コメントは5※と同様です）

根岸のそら塾★周辺にどのようなインパクトを与えるか興味深い。

根岸の商家★金美館通りに立派なつくりの古い酒屋や米屋が並んでいた。厚みのある町だ。

根岸の侘助★とても居心地が良く、お料理もお酒も美味しかった。行きつけのお店になりそうです。

根岸の侘助★



谷中寺町／アランウエスト氏の説明を聞く



根津職人町／カフェ couzt で休憩する

7 ■芸工展は谷中一帯のまちづくりにどういう点で役立っていると思いますか。それはなぜですか。

●まちの中を歩かせ、普段は見落としてしまいそうな場所等をこうした機会に発見させてくれる企画だと思います。また、年を重ねる毎に、訪れる人とまちの人を近づけている。

●部外者であるとなかなか入りにくい路地を歩いたりする機会を増やし、谷中に親しみを感じるようになる。歩いたりすることで街の味わいを感じる。

●芸工展で路地裏の建物などでの展示があると、普段は入りにくい路地まで人が入ってくる。生活者にとっては迷惑な話だが、街の活性化という効果はある。

●スタンプを集めてみようとして、街を歩き回ることになる。何かしらの、発見がある。

●まちの雰囲気に合わせた新しい店が増え、休日に訪れる人だけでなく、他の町から転入してくる人が増えて、町の活性化につながっていると思われる。

- 広範囲を歩かせて、普段は入らないようなお店やギャラリー等に入るきっかけづくりをつくるというのは、大いに役立つと思います。あの後、市田邸でお薦めされた鼈甲細工の職人さんのところにひとりでお邪魔したのですが、30分くらいつかり、鼈甲細工を使ってもっといろんなことをしたいという熱意にやられました。ああいう機会を設けることによって、今まで接点がなかったような様々な人と人とのネットワークができそうな気がします。住民として見ていても、この数週間は人通りが増えて、賑やかになりました。ただし、住環境との両立は難しいですね。もともと道が狭いので、普通に自転車で買い物に行くときに道が通りにくいです。
- もともとアーティストが住み、工房やギャラリーが多いという街の特性に上手く合ったイベントである。そこで建物とアートの相互作用のような展示を仕掛けることにより、さらに街のイメージが多彩になり、アーティストの創作・展示空間としての街のあり方が定着しつつある。さらに、建物の壁面や路地空間も活用すれば、町にアートがにじみ出してくるのだが・・・。
- 芸工展を谷中一帯のまちづくりにどのように寄与させたいと考えているのか、逆にそれが気になりました。



根津職人町／路地の奥まで展示を訪ねる



根津職人町／長屋の工房に入って話を聞く

8 ■根岸・入谷の町は、谷中との共通点も相違点もあると思いますが、今後どのようにしていければいいと思いますか。

- 谷中のようにあまり商業に走らずに、東京の東側の個性的？な住宅地として独自に突き進んでいってほしいです。その感覚に共感した住民が集まって、さらに独自性が高めていければ。
- 根岸・入谷の街は、谷中のようにメジャーにならずに、あくまでも生活しやすい街を目指してほしい。
- 根岸・入谷の通り沿いは建て替わってますが、街区内の部分は、谷中より下町的な空間が残っているような気がします。根津とはバスで繋がっているの、谷中芸工展オプションとして、木造長屋等を活用することも考えられるのではないのでしょうか。
- 町の雰囲気を残しつつ外来者を迎え入れる。そのバランスは難しいが、利便性の高い立地なので、街の雰囲気を残すことに賛同する外来者を選別する仕組みを作っても、希望者は多いと思われる。空き家を居住者自身にリノベーションさせるような機会があれば、外来者が何を求めているのか、町の魅力がわかると思う。
- 本家下町の厚みがある町なので、あえて大きな変化を求めずに、現にある味わいを活かした方向がいいと思う。「通好みの町」とでも言おうか。



根岸・入谷／金美館通りに並ぶ店舗群



根岸・入谷／古いビルを改装した洋風酒場

9 ■その他、今回の企画に対する感想など（自由記入）

●芸工展自体は何度が訪れている企画で、以前と重複する場所も多いのですが、町全体の雰囲気の変化が感じられたのが良かった。また、久しぶりに雨の中を歩きまわったのも、今までとは違う面が見えた気がします。

（M・M）

●まち歩きをご一緒させていただくと、いつも本当に濃いところばかりで、さすがという感じです。京成立石（夜の部含む）をされるときは、ぜひ参加させていただきます！！（H・T）

●Kさんによる谷中の背景解説（ウラ話）が興味深かったです。地域を実際に目にしながら、目にすることのない「ウラ事情」を伺うとまち歩きに奥行きが出ますね。金木犀の薫りの心地良い日でありながらも、しかし、雨の一日。悪天候をものともせず、谷中を前進（迷走？）する tekuteku メンバーのまち歩き好き？に脱帽しました。（O・M）

●あいにくの雨でしたが、雨の谷中も悪くはなかったと思います。（K・T）

●そら塾などを見て思ったのですが、木造の再生プロジェクトを tekuteku なりに収集してはどうでしょうか。（I・Y）

●とても良い企画です。アートリンクは昨年も1つ2つはいましたが、なかなか小さなギャラリーで寄りにくい雰囲気でした。今回、スタンプラリーや団体さんであることで、入ることができました。街の常連さんでない部外者も、もっと入りやすくなるよう開かれた感じになるとよい。毎回違う路地を回遊・体験できるようなところでギャラリーが開かれるとよいと思います。ギャラリー以外のこのエリアに住む人々との接触機会が少なく、よそのものまま終わるのは、ちょっと寂しい感じでした（瀬戸内国際芸術祭は、島のおじちゃん、おばあちゃんと路地でお話する機会がありました）。以上どうもありがとうございました。（H・H）



谷中の古本市とそら塾の古書店での収穫



居心地のいいカフェ couzt での雨宿り

コーディネーターより■

谷中芸工展は何回も訪れていますが、今回は根岸をコースに加えることで、上野、谷中、根岸という町の違いを際立たせようと考えました。参加された皆さんは、一見すると似ている谷中と根岸の違いを敏感に感じとってくれたようです。さすが、まち歩き百戦錬磨の tekuteku メンバーですね！特に、地元の人や常連でないと足を踏み入れにくい根岸の町に、そら塾、侘助という手がかりができたのが収穫でした。谷中・根津・千駄木に対し、入谷・根岸・千束の方が本家「谷根千」だという主張も肯けます。雨で谷中は半分しか歩けませんでした。根岸の夜までおつきあい下さり、ありがとうございました。（O・R）



そら塾にて